



史蹟史料部

2025 年 5 月 26 日

#71

日本人墓地公園

ニュースレター

漫画家いわみせいじさんの似顔絵と チョンバルマーケットのローミー

南十字星 2025 年 5 月号でご紹介しましたとおり
(オンライン版は[こちら](#)からご覧いただけます)、2
月に史蹟史料部歴史研究班でフォートカニングパーク
ツアーに行ってきました。

ちょうど日本からシンガポールに旅行にいらしてい
た漫画家いわみせいじさんもツアーに参加いただきま
したので、いわみさんが描かれた似顔絵や墓地イラス
トマップ、日本人会発行の書籍「喰いだおれ in
Singapore」に描かれたホーカーの人気メニューをご
紹介します。



和歌山県出身のいわみさんは1981年にデビューした漫画家で、大阪芸術大学で教授を務められています。2010年には平成22年度文化庁文化交流使として、シンガポール、マレーシア、韓国、イギリスに派遣されました。

シンガポールに滞在した際には、シンガポールの在留邦人、日本人観光客の墓地公園に対する理解度を上げるため、いわみさんに天然記念樹や新しく開設したメモリアルプラザを網羅したイラストマップを作成していただきました。

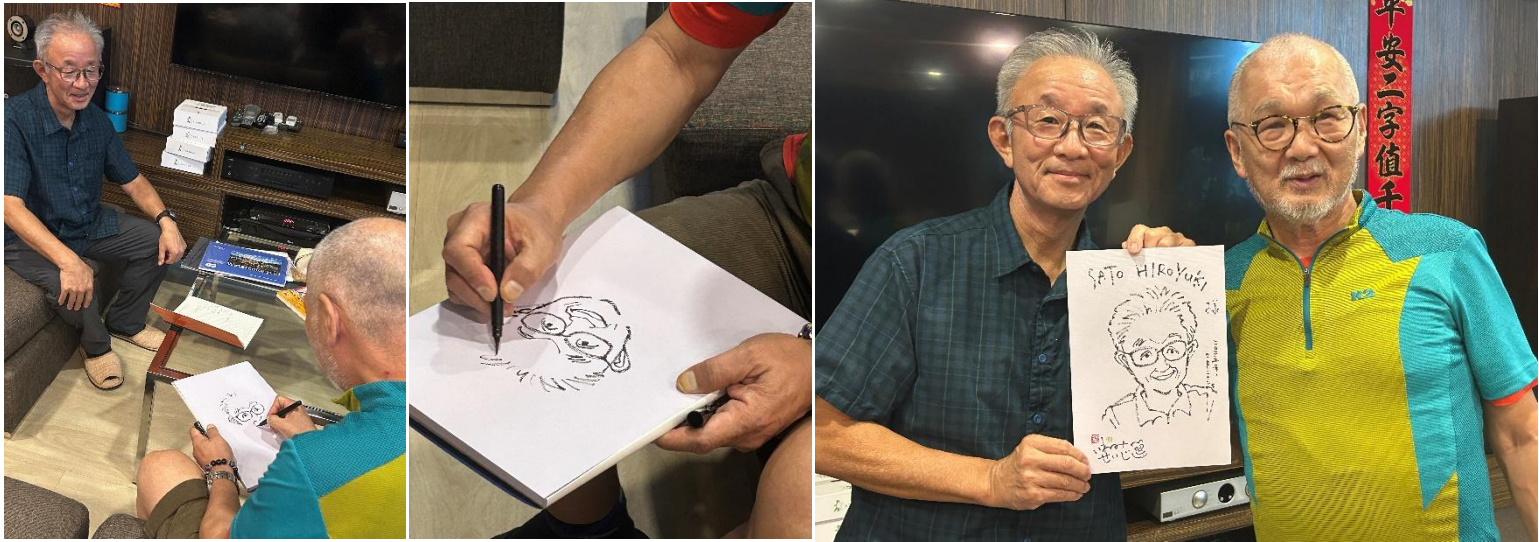
そのマップは日本人墓地公園の門に入ってまっすぐ進み、最初のフラワーアーチの左手の通路に入るところ、[山本音吉の納骨堂（ニュースレター#7）](#)の近くに設置していますので、ぜひご覧ください。



また2000年に韓国で開かれた「JAPAN WEEK」で2週間の期間中に2000名の似顔絵を一人で描きあげ、噺家や漫才師とともに似顔絵漫談と称した演目を演じたこともあるそうです。

フォートカニングパークツアーのあとに、史蹟史料部歴史研究班メンバーも似顔絵を描いていただきました。

人物の特徴を瞬時にとらえて描く様子は、まさにプロフェッショナルな作業でした。まず最初に描いていただいた似顔絵は、日本人学校小学部クレメンティ校教諭の佐藤先生そのもの！



四十万理事、3月に帰任された中谷前チャンギ校校長先生もよく特徴がとらえられていて、メンバー一同良い思い出となりました。いわみさんがまたシンガポールにいらっしゃる際に、もし日本人会で似顔絵を描いていただける機会がありましたら、お知らせします。

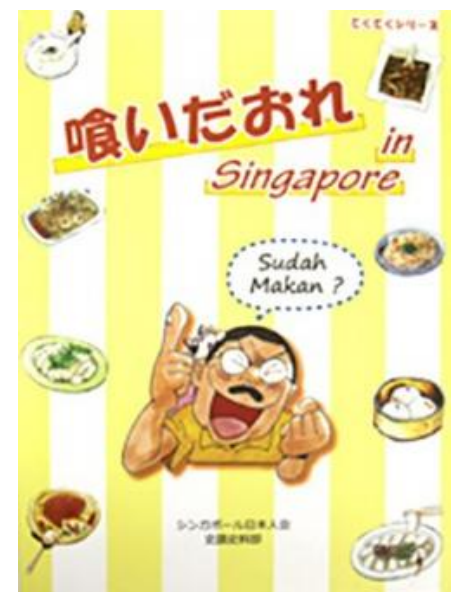


また、いわみさんは2014年に日本人会史蹟史料部が発行した書籍「喰いだおれ in Singapore Sudah Makan?」にて、漫画でシンガポールのホーカーセンターの名物料理を紹介しています。

シンガポール国外で暮らすシンガポール人に、懐かしいものは何かと問うと、概ねホーカー料理をそのひとつに挙げます。ホーカー料理は国外にいるシンガポール人をつなぎとめる錨の役割を果たしています。

また日本からシンガポールにやってくる日本人にとっても、滞在中の楽しみのひとつはホーカーに行ってみることではないでしょうか。

ホーカー文化は2020年にユネスコの無形文化遺産に登録されました。シンガポールの歴史、文化、生活習慣と密接に結びついた重要な文化遺産であるホーカー料理を紹介するこの本は既に完売していますが、日本人にも馴染みあるチョンバルマーケットのあるストールに、いわみさんの漫画が貼られています。





チョンバルマーケット2階のホーカーセンターにあるローミー屋さん「卤麵 178」は、朝から行列ができる人気店です。

店頭に、いわみさんの漫画が貼られています。



サメ! サメ? サメ!! □ー ミー



Lor Mee ローミーとは

簡単に言うと、あんかけ麺です。太めの麺を、野菜や鶏ガラから作られたスープの中に入れてあり、具は茹で卵、白身魚やエビ、肉やフィッシュケーキ（さつま揚げのようなもの）のスライスが入っている。見た目は黒っぽいスープだが、味は日本のあんかけうどんに似ている。黒酢で酸味を出しており、好みにニンニクやチリを加えます。

はじめり

ローミーはフィリピン、マレーシアにもあります。煮込みうどんに似ています。「鹵（ロー）」というのは、福建語で「煮込む」という意味です。1950年中頃、肉の不足により生み出されました。ローチョー（Rocho）マーケットの店主たちが、濃いスープになるようにコマ切れ肉とフィッシュボールを煮込んだものがはじめりと言われています。



この本のタイトルにもなっている「**Sudah Makan? スダマカン?**」とは、マレー語で「**ご飯は食べたか**」という意味です。

シンガポールでは昼食時になると、町の行き交う人たちが、「Have you taken a lunch?」「吃饱了没有」など、「ご飯は食べましたか?」と言い合っています。

これは挨拶の一種で、日本人が交わす「今日は暑いですね」「寒くなってきましたね」などの挨拶に似ています。四季のある日本では気候の変化が人々の関心事です。

植民地時代に食うや食わずの生活を強いられたシンガポールの先人たちにとって食事は切羽詰まった関心事だったのかもしれませんが、移民の中には貧困に喘ぐ人も多かったのかもしれませんが。

「スダマカン」、この挨拶にシンガポールの歴史が垣間見えます。

喰いだおれ in Singapore に登場するホーカー料理を特集した過去の南十字星掲載記事は
日本人会ウェブサイトでご覧いただけます ⇒ [シンガポール日本人会 | シンガポール紀行](#)